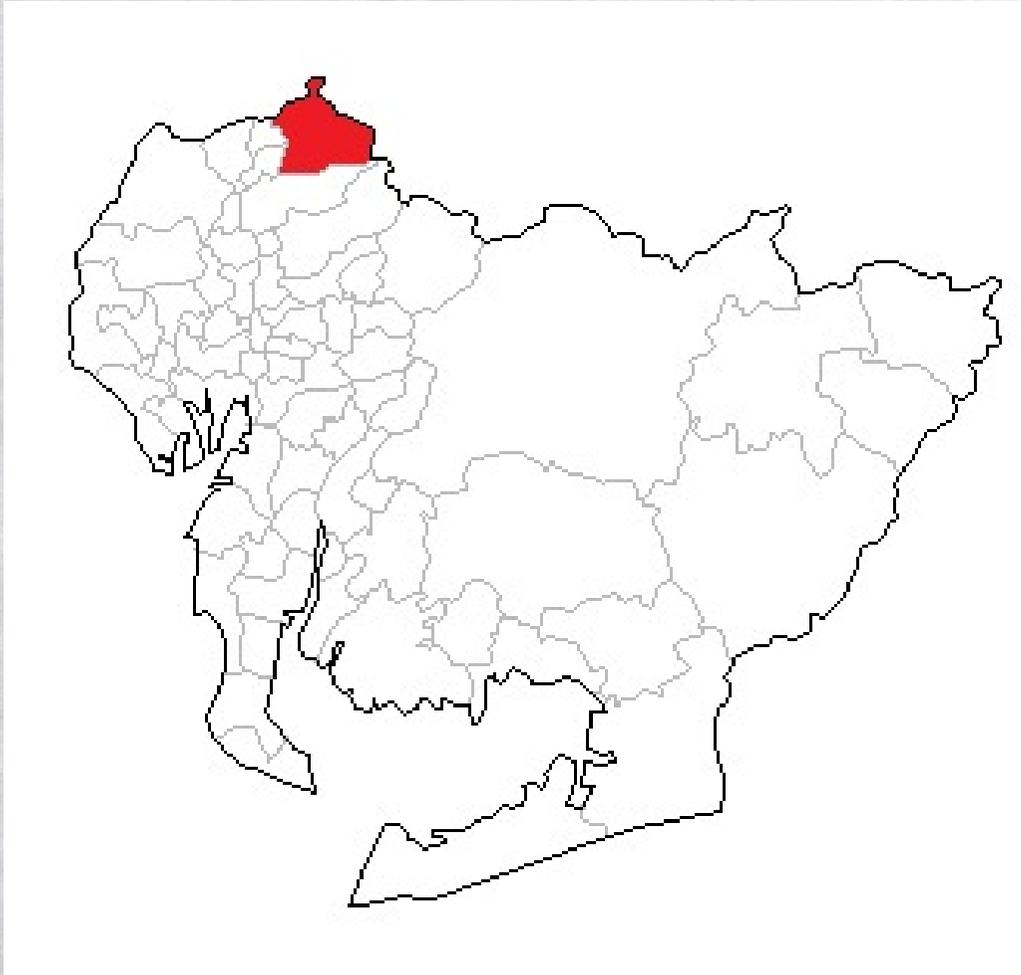


「本物」を求めて、犬山へ。

犬山市



1. 犬山市の概要



○市制施行

昭和29年4月1日(犬山町、城東村、羽黒村、楽田村、池野村の5町村が合併)

○人口

人口74,796人
(平成26年11月30日現在)

○位置

愛知県の最北端に位置し、名古屋市、岐阜市まで電車で25分、名神・東名高速道路小牧インターチェンジから11km

○面積

74.97km²

○財政規模(平成26年度)

- ・一般会計 23,301,040千円
- ・特別会計 15,749,603千円
- ・財政力指数 0.895
(平成23年～平成25年の平均)

～犬山市の歴史～

犬山は、江戸時代に犬山街道（稲置街道）と呼ばれる街道が整備されて以来、人々の往来で賑わっていた。

犬山城の城下町として栄えた城下町地区は、犬山城や茶室如庵といった国宝、国の重要無形民俗文化財に指定された370年余り続く犬山祭など、歴史的・文化的な文化財を多く抱えているほか、味わい深い町並みを始め、歴史的・文化的価値の高い町割、町家、木戸跡などが数多く残されている。

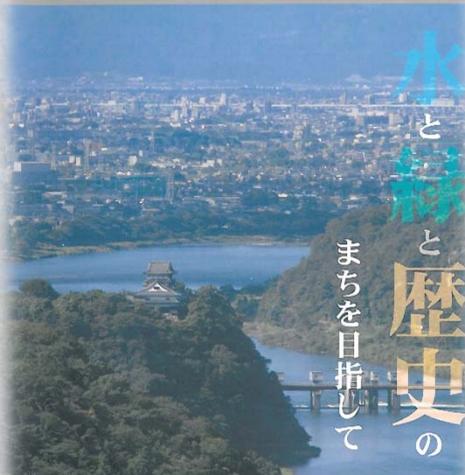
現在は、年間500万人の観光客が来訪する国際都市として全国に知られるようになった。



～景観保護の取り組み～



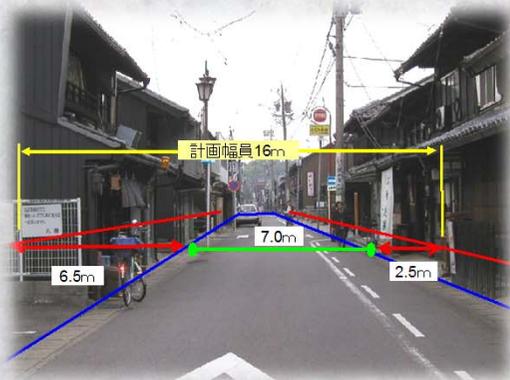
犬山市景観計画



犬山市は、元中核都市として、
 愛知県内では指定都市、中核市以外では初めての景観団体となる。
 景観条例及び施行規則施行。
 『犬山市景観計画』の告示。

平成2年	<ul style="list-style-type: none"> ・犬山駅西地区において、15階建てのマンション建設計画が発生。 ・都市景観懇談会を制定。
平成5年	<ul style="list-style-type: none"> ・『犬山市都市景観条例』制定。 ・犬山市都市景観審議会の設置。
平成6年	<ul style="list-style-type: none"> ・『犬山市都市景観基本計画』の制定。 ・都市景観重点地区指定。
平成17年	<ul style="list-style-type: none"> ・犬山市が愛知県内では指定都市、中核市以外では初めての景観団体となる。
平成20年	<ul style="list-style-type: none"> ・景観条例及び施行規則施行。 ・『犬山市景観計画』の告示。

～都市計画道路の見直し～



昭和46年	○歴史的な町割りを分断する形で、幅員16mの都市計画道路(本町通線、新町線)が計画決定。
平成8年	○いずれも長期未整備路線となっていたが、新町線の事業着手が表明されると、事業に対する地域住民による議論が行われた。
平成10年 ～11年	○計画幅員による道路整備事業を一時凍結し、「みちづくりや「まちづくり」についてのワークショップを開催。
平成12年 ～13年	○城下町のまちづくりの方向性が「都市計画道路を拡張しない」ということで決定し、『歴史のみちづくり整備計画』及び『市街地活性化基本計画』を策定。 ○地区内のまちづくりコンセプトを「歩いて暮らせるまち・歩いて巡るまち」とし、城下町の景観に合ったみちづくりを展開していくことになった。
平成17年～	○本町通線と新町線の現道幅員での整備が決定。 ○第一回まち交大賞計画大賞受賞 ○電線類地中化・道路美装化整備を実施。

～(株)名古屋鉄道とのタイアップ～

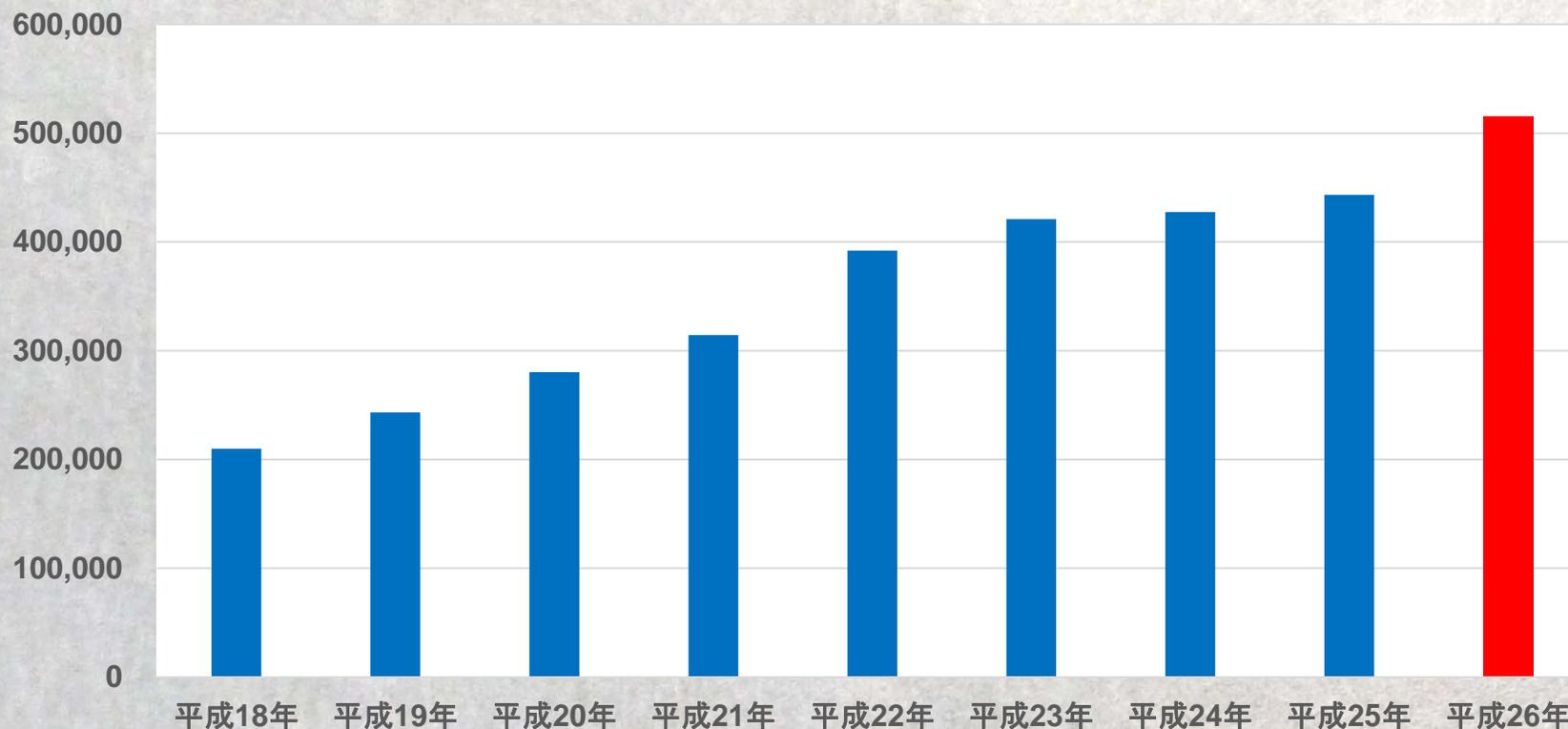
- 「沿線価値の向上」を目的として、沿線ディスティネーションキャンペーンを展開していた(株)名古屋鉄道と、「歩いて巡るまちづくり」をモットーに観光基盤整備を推進していた犬山市が協力。
- 国宝犬山城等の犬山の魅力を「まち歩き」の観点から、楽しみ方を提案した「犬山キャンペーン」を平成19年(2009)より開始。



～犬山城登閣者数の推移～

道路の美装化や名古屋鉄道(株)とのタイアップ等により、入城登閣者は増加傾向にあり、平成26年12月16日に50万人に到達した。

犬山城登閣者数の推移



2.歴史まちづくりの方針及び特徴

～組織体制の変化～

- 犬山市歴史的風致維持向上計画実現のために、まちづくりと文化財の保存伝承を同じ部署で一括して行う必要があると判断。
- 平成21年4月より、教育委員会に「歴史まちづくり課」を新設した。

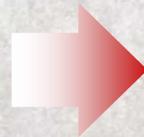
これまでの体制

都市整備部

- 建築課
 - ①景観について
- 都市計画課
 - ①都市計画・まちづくりについて
 - ②施設管理について

教育委員会

- **生涯学習課**
 - ①伝統文化の継承について
 - ②文化財保護について



計画策定以降の体制の特徴

都市整備部

- 都市計画建築課
 - ①景観について
 - ②都市計画について
 - ③まちづくりについて

教育委員会

- **歴史まちづくり課**
 - ①伝統文化の継承について
 - ②文化財保護について
 - ③歴史的風致維持向上計画重点区域のまちづくりについて
 - ④施設管理について

～計画を実現するための体制～

犬山市歴史まちづくり連絡調整会議

事務局

- ・教育委員会
- 教育部 歴史まちづくり課

連絡
調整



関係課

- ・秘書企画課・財政課
- ・都市計画建築課・建設課
- ・商工企業振興課・観光課
- ・地域活動推進課
- ・公園緑地課 等

事業の
推進



連絡調整



国・愛知県

- ・国土交通省
- ・文化庁
- ・県建設部
- ・県教育委員会文化財保護室

連絡調整



犬山市歴史まち
づくり協議会

専門的検討



犬山市歴史まち
づくり協議会
専門部会

意見照会及び報告



外部関係機関

- ・犬山市文化財保護審議会
- ・犬山市都市計画審議会
- ・犬山市景観審議会

～犬山市内にある維持向上すべき歴史的風致～

①犬山祭と犬山城・犬山城下町にみる歴史的風致

寛永12年(1635)に始まったと伝えられる犬山祭の車山行事が、毎年犬山城下の針綱神社の例祭として行われている。城下13町内から地域に暮らす町衆らによって、車山の組立てから曳き回し、からくり奉納、解体保管を始め、からくりとお囃子の練習や夏の懸装幕の虫干しなど、一年を通じた祭りの運営が行われる。

町衆らによって370余年の守り伝えられてきた犬山祭と、その舞台となっている国宝犬山城や城下町の歴史的なまちなみが一体となって受け継がれている。



②木曾川周辺にみられる歴史的風致

万治2年(1659)、犬山城主3代成瀬正親の庇護のもと始められた御料鵜飼から350余年、腰裳や足半草履を身にまとった鵜匠が行う「鵜飼」は、国宝犬山城を背景とした季節を彩る風物詩として、市民の心に刻まれている。

水運の要所であって犬山城下付近では、川岸には水にまつわる安全を祈願するために建てられた神社や常夜灯が、周囲のまちなみと一体となって歴史的な風情を醸し出している。また甘露煮などの食もめ地域に息づいている。



③犬山焼にみる歴史的風致

元禄あるいは宝暦年間に始まりとされる犬山焼は、犬山城主7代成瀬正壽によって「御庭焼」として保護されたことにより現在見ることができる特徴の「赤絵」や「雲錦手」の意匠が定着した。

城下町では、犬山祭の時などに犬山焼の器に盛り付けた料理で人々をもてなすなど、町家建築物などと共に城下町の文化の一つとして守ってきている。

この伝統的技法を用いた犬山焼が現在も息づき、赤絵や雲錦手に見られる彩り豊かな装飾が、歴史的なまちなみの中で人々の目を楽しませている。



④豊年祭とハツ八祭などにみる歴史的風致

江戸時代中期より「尾張二之宮」として親しまれている大縣神社には、伝統行事が多数ある。神輿を担ぎ、男女の厄除を祈願する豊年祭では、「天馬」と呼ばれる色とりどりの紙の飾りを付けた竹棒を、神事を終えた直後に見物客が一齐に取り合う。また8月には、茅で作られた大きな輪を八の字にくぐるハツ八祭と呼ばれる神事などがある。

大縣神社(本殿などは重要文化財)を中心に祭りの際、鳥居までの一本道には大勢の参拝者や見物人が詰め掛け、往時の隆盛を垣間見ることができる。



⑤石上祭の歴史的風致

尾張富士(277m)は、尾張平野の本宮山(293m)に高さの僅か十数メートル及ばないという悲哀を長年感じ続けてきたという言い伝えが、石上げ祭を産み出したと言われている。市指定無形民俗文化財の「石上祭」は、江戸時代後期より連綿と続いている。真夏の季節に人力で巨石を山に上げた先人の足跡は、尾張富士浅間神社本殿を起点とする参道一帯の林立する献石により今日も見ることができる。

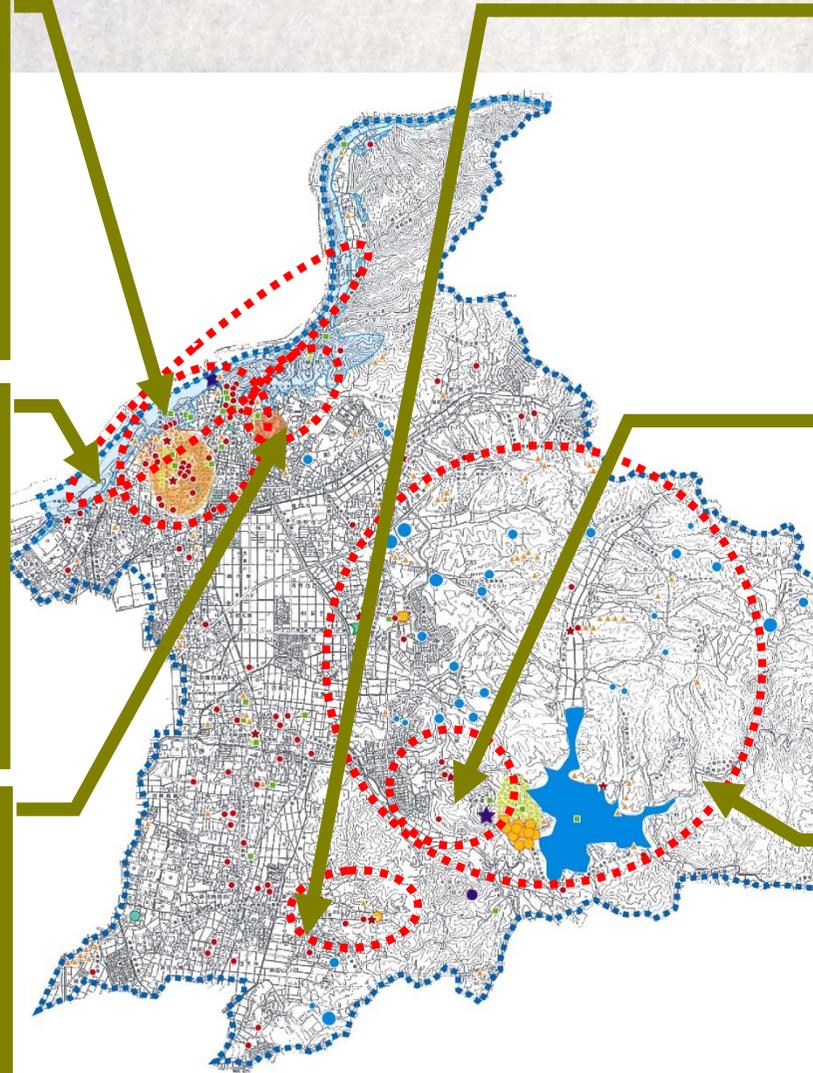
尾張富士信仰と人々が石に託した願いが、独特の風情を醸し出している。



⑥虫送りにみる歴史的風致

農業用ため池や里山が残る城東地区には、農家にとって大切な行事が代々受け継がれている。毎年7月中頃、水田の害虫を追い払い、豊年を祈願する「虫送り」と呼ばれる行事は、住民らが祭文を唱えながら地区内を練り歩き、各家を訪問しながら地区の境にある川端まで来たら藁人形に短冊を付けた笹竹を立てて帰る。

この地域には五穀豊穡と虫を封じ込める神社として有名な虫鹿神社があり、虫送りの舞台ともなっている。この他にも、天道宮神明社楼門など数多くの神社仏閣が建立されており、虫送り行事とともに農村集落での民間信仰に関わっている。



3. 歴史まちづくりの取組及び成果 ~重点区域における施策・事業概要~

新町線 道路美装化事業

犬山が、総構えの城下町であったことを今に伝える木戸(枡型)の形態を残した道路として、景観に配慮した道路の美装化を行った。



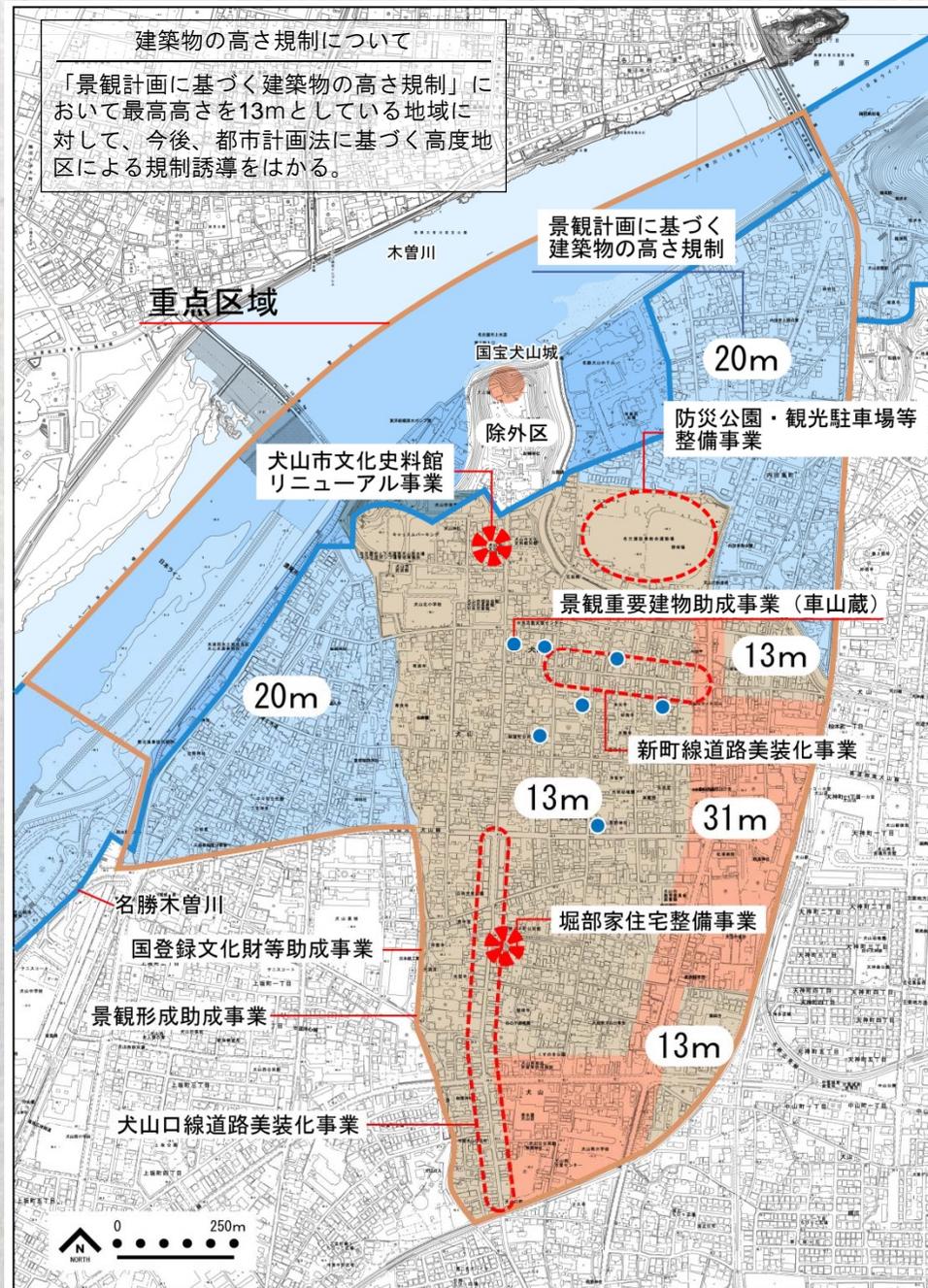
■余坂木戸跡

堀部家住宅 整備事業

犬山城下町で数少なくなった武家文化を伝える住宅で、国登録有形文化財である堀部家住宅の保存・活用を目的とした修理等を行った。



■堀部家住宅



景観重要建造物 助成事業(車山蔵)

車山蔵の保全のため、当該建造物の主要構造部の改修及び外観の修景を行う経費の一部を助成した。



■車山蔵

犬山市文化史料館 リニューアル事業

既存の文化史料館を、犬山城及び犬山城下町を紹介する施設として改修計画を策定し、この計画に基づいて施設整備を行った。



■文化史料館

～城とまちミュージアムのリニューアル事業～

事業期間 平成21年～24年

基本理念

犬山城と城下町の歴史点文化史料をわかりやすく展示し、歴史文化と観光の総合的なガイド施設としての役割を担う。



展示内容

- 犬山城と城下町の大型ジオラマ
- 合戦絵巻の世界
- (公財)犬山城白帝文庫所蔵品の展示



～建造物の修理・修景～

○渡邊家住宅



主な工事内容

- ・屋根瓦葺き替え
- ・1階建具取り替え
- ・2階格子復原

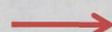
○大島家茶室



主な工事内容

- ・銅製軒樋
- ・水切取付け
- ・外部漆喰・聚楽壁塗替え
- ・内部聚楽壁塗替え

○木藤家住宅



主な工事内容

- ・屋根瓦葺き替え
- ・外壁洗出し部補修、防水処理
- ・玄関建具取替え

～ソフト面での歴史まちづくりの取り組み～

○文化財の防火について



平成26年1月23日
大縣神社訓練



平成26年1月28日
国宝茶室如庵 訓練

毎年文化財防火デーに合わせて主要な建造物の防火訓練を行い文化財の防災に対する意識の高揚を図っている。また、文化財保全の環境づくりに努めるとともに、文化財の所有者、管理者、地域住民、消防署が協力し合い防災訓練等を行なうよう必要な支援を図っている。

○伝統文化・保存伝承事業



熟練奏者による子ども達への笛の指導



子ども達による笛の練習風景

各地で守り伝えられてきた伝統行事の伝承のため、民俗文化財保存伝承事業補助金交付要綱(犬山市)に基づき、①伝統行事に使用される道具の保存修理及び新調 ②神樂屋形等の修理 ③後継者育成 について助成を行っている。

○史跡東之宮古墳普及啓発事業



集まれいぬやまっこ！の様子



出前授業の様子

小中学校向けの普及啓発活動やパネル展示、地元向けの講演会など、東之宮古墳を市内外に対して普及啓発する事業を行っている。

4.歴史まちづくりに取り組む上での課題

○犬山城下町における防災対策

- ・先日の火災によって、城下町における防災の課題が浮き彫りに。
- ・城下町の保全のため、道路拡幅による延焼遮断帯の整備、建物移転によるオープンスペースの確保や耐火建築物への立て替えなどハード対策には制約がある。
- ・火災が発生した際、建造物が燃えにくくなるよう、不燃化等を検討する必要がある。
- ・多くの被災者が安全に避難等ができる場所を近傍に確保することが必要不可欠である。
- ・内田防災公園を取得・整備することにより、城下町地区の町割りや歴史的建造物を残しながら、防災機能及び交通機能(観光駐車場)の向上を図る。



内田防災公園の整備予定図

○犬山城下町における人口の減少

- ・犬山城下町における高齢化が進み、人口が減少してきている
- ・今回の火災についても、無人になった店舗から出火し、発見が遅れた。
- ・犬山城下町の人口が減っており、犬山祭の担い手、後継者の確保が難しくなっている。
- ・城下町の町並みを守ることや犬山祭の存続にも理解がある定住者をいかに増やしていくかが課題であり、理解ある定住者が増えることが、防災や防犯につながる。



城下町における火災現場の様子

○景観阻害物件への対応

- ・築40年を超える犬山市福社会館は、老朽化や耐震性の問題に加えて、城下町の景観を阻害していることから施設利用者の意向を配慮しながら施設のあり方について検討を進めていく必要がある。
- ・平成29年度に新体育館が羽黒中央公園に完成するため、現体育館用地のあり方について検討を行う必要がある。



移転が決定している犬山市体育館

○都市計画道路の見直し

- ・現道幅員に都市計画変更を行った本町通線の南側の犬山口通線についても、歴史的町並みの連続性等を鑑み、課題の整理、見直し方針を策定した上で、交通量調査を踏まえ、都市計画変更を検討をする必要がある。
- ・現在、経年劣化による耐震性の問題や、景観を阻害している要因となっているため、下本町商店街のあり方について検討する必要がある。



下本町商店街の様子

5. 今後の展望

～歴史的風致と観光と市民生活が矛盾しないまちづくりの推進～

2037年に迎える犬山城築城500年に向けて、住民及び観光客が安全・安心で、にぎわいと潤いを感じられる良好な住環境の形成を図りながら、城下町地区の歴史的景観を保持した町並みを形成していく。

